

# 千葉県ニュースリリース

主役は県民 600万人のちば

Vol.21

平成15年6月5日（毎月2回発行）

このニュースリリースは、「変革と創造」に取り組む千葉県の、重点施策の取組やイベントなどをお知らせするものです。詳しいことは、各記事末尾の「問い合わせ先」にご照会ください。



千葉県総合企画部報道監（報道グループ）

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1

電話 043-223-2061（佐久間）

FAX 043-225-1265

Eメールアドレス chiba-news@mz.pref.chiba.jp

千葉県ホームページ <http://www.pref.chiba.jp/>

## ホットなニュース

### 全国で初めて / 「行政対象暴力対策室」を設置

県では、6月1日、行政に対する不当な要求行為などのいわゆる行政対象暴力に組織的な対応を図るため、その窓口として総務部総務課に「行政対象暴力対策室」を新設しました。ここでは、同日設置された庁内組織「千葉県行政対象暴力対策委員会」の運営や行政対象暴力の実態把握、対応マニュアルの作成を行うほか、職員からの相談対応や職員に対する研修などを行います。また、6月2日には、県と県警・県弁護士会・県暴力団追放県民会議の4者が、行政対象暴力に協働して取り組むための「千葉県における行政対象暴力の排除に関する協定」を締結しました。このような対応は全国初の試みであり、これにより公務の適正な執行及び職員の安全の確保を図っていきます。

（担当：総務部総務課 行政対象暴力対策室 TEL 043-223-3067 FAX 043-221-1133）

### 黒潮が結ぶ、きのくに・ふさのくに / 6月7日（土）黒潮交流シンポジウム

千葉と和歌山はともに半島に位置し、太平洋を北上する黒潮を介して結ばれてきました。古来よりの交流は、醤油づくりや漁業技法などにルーツが見受けられます。このたび、千葉と和歌山の交流の歴史を踏まえながら、今後の両県の多様な交流の促進に向けて「黒潮交流シンポジウム」を開催します。「黒潮が結ぶ きのくに・ふさのくに」をテーマに、本県からは堂本暁子知事とヒゲタ醤油（株）の濱口敏行代表取締役社長が、また、和歌山県からは木村良樹和歌山県知事と大橋建一和歌山市長が出席して、パネルディスカッション（コーディネーター：随筆家 梅田恵以子さん）を行います。会場は、和歌山マリーナシティ ロイヤルパインズホテル。

（担当：総務部市町村課ふさのくに振興室 TEL 043-223-2362 FAX 043-221-0310）

## 県政トピックス

### NPOとの新しい協働事業をスタート / タウンミーティングの開催

県では、NPOと協働の新たなモデル事業を開始しました。子育て、高齢者福祉、商店街の活性化、地域スポーツの振興などといった地域課題の解決や地域の中にあるさまざまな施設の活用を、NPOからの提案を受けて、県、市、NPOが一つになって考え、活動していく全国初の事業です。来る6月15日（日）の午後1時から、我孫子市の手賀沼親水広場「水の館」でフォーラムが開催されます。

また、県では、さまざまな分野でNPOと協働して行う事業について提案してもらうため、県内4か所で、NPOや県民、市町村職員、県職員が意見交換するタウンミーティングを次のとおり開催します。

<開催予定> 6月17日(火)午後6時から県庁本庁舎1階多目的ホール、6月29日(日)午後1時から茂原市役所市民室、7月6日(日)午後1時から木更津市中央公民館、7月9日(水)午後6時からアミュゼ柏でそれぞれ開催します。事前に参加の申し込みが必要です。

(担当:環境生活部NPO活動推進課 TEL043-223-4165 FAX043-221-5858)

## バイオマス立県ちばを目指して / 5月末バイオマス推進方針を策定

県では、資源循環型社会づくりを進めるため、このほど、動・植物由来の有機性資源であるバイオマスの有効利用による「バイオマス立県ちば」推進方針を策定しました。具体的には、次の4つのバイオマスタウンの中核となる施設を2010年までに10か所程度構築することを目指して、事業者への支援、国との連携、シンポジウムなどの普及啓発に取り組みます。**ハイテク・バイオマスタウン**臨海工業地帯における関連新技術を活用し、バイオマスを原料とする生分解性プラスチック製品の工業化やガス化発電、バイオディーゼル燃料化などを進めます。**アグリ・バイオマスタウン**食品加工残さや未利用農産物の堆肥化・飼料化、家畜の排泄物のメタン発酵によるエネルギー利用などを進めます。**ウッド・バイオマスタウン**製材端材や木くずの堆肥化、燃料化、新建材化などの利用を促進します。**フラワー・バイオマスタウン**菜の花やヒマワリを栽培し、菜の花は蜜源として利用します。また、それらの種から食用油を作り、さらにそれを使った後の廃油からバイオディーゼル燃料を製造して、観光地を巡る循環バスの燃料としての利用を進めます。

(担当:環境生活部資源循環推進課バイオマスプロジェクトチーム TEL043-223-2682 FAX043-221-3970)

## 住民参加と情報公開 / 第14回三番瀬円卓会議を開催

三番瀬再生計画検討会議(三番瀬円卓会議)では、徹底した住民参加と情報公開により東京湾・三番瀬の再生計画案の検討を進めています。4月25日に行われた第12回の会議においては、三番瀬の再生に係る制度的担保を検討するための下部組織「再生制度検討小委員会」を設置しました。第14回三番瀬円卓会議は、6月23日(月)午後6時から浦安市運動公園総合体育館サブアリーナで開催されます。また、第1回再生制度検討小委員会は、6月12日(木)午後6時からグリーンタワーパレス千葉で行われます。それぞれ、どなたでも参加できますので、希望される方は当日会場にお越しください。

(担当:総合企画部 三番瀬プロジェクトチーム TEL043-223-2439 FAX043-224-9026)

## 観光・イベント

### 初夏の醍醐味 / 房総はびわ狩りの季節です

この時期の南房総・内房の味覚の代表は「びわ」です。千葉県はびわの産出額が全国第2位で、古くから房州びわは皇室への献上品としても有名です。富浦町(とみうらまち)や富山町(とみやままち)はこれらの房州びわの名産地として知られており、多くのびわ畑でびわ狩りを行うことができます。大粒のびわを木からもぎとってかぶりつく醍醐味はこの時期にしか味わうことができません。富山町内の民宿(問い合わせ先:富山町観光案内所 TEL:0470-57-2088)や富浦町の枇杷倶楽部(TEL:0470-33-4611)などでびわ狩りができます。料金は2,000円程度からで、昼食を兼ねてびわ狩りをしていく観光客が数多く訪れています。あなたも房総の初夏の味覚を味わってみてください。

(担当:商工労働部観光コンベンション課 TEL043-223-2414 FAX043-225-7345)

### <電子メールで配信します>

この「千葉県ニュースリリース」は、電子メールでお送りすることができます。ご希望の場合には、上記のアドレスあてに、件名を「メール送付を希望」とした上で、送付先のメールアドレスをお知らせください。その後のニュースリリースから電子メールによりお届けします。